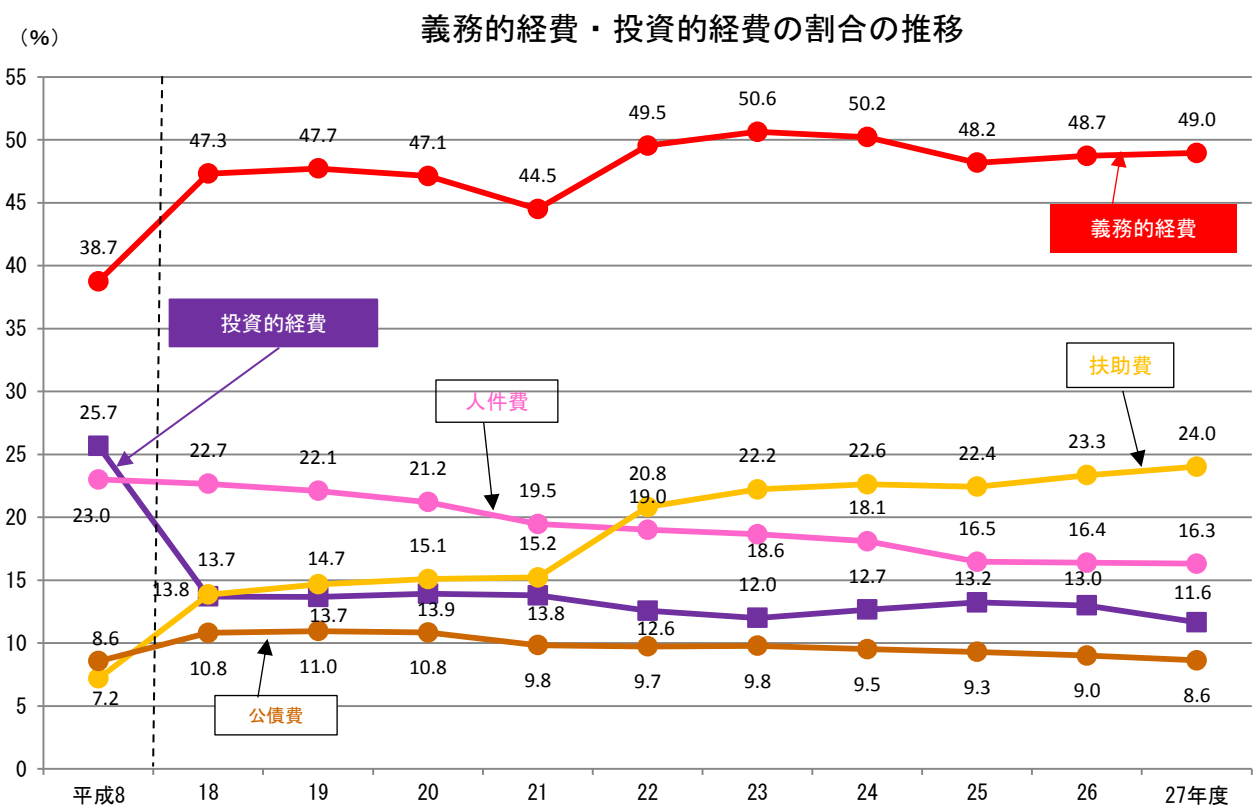
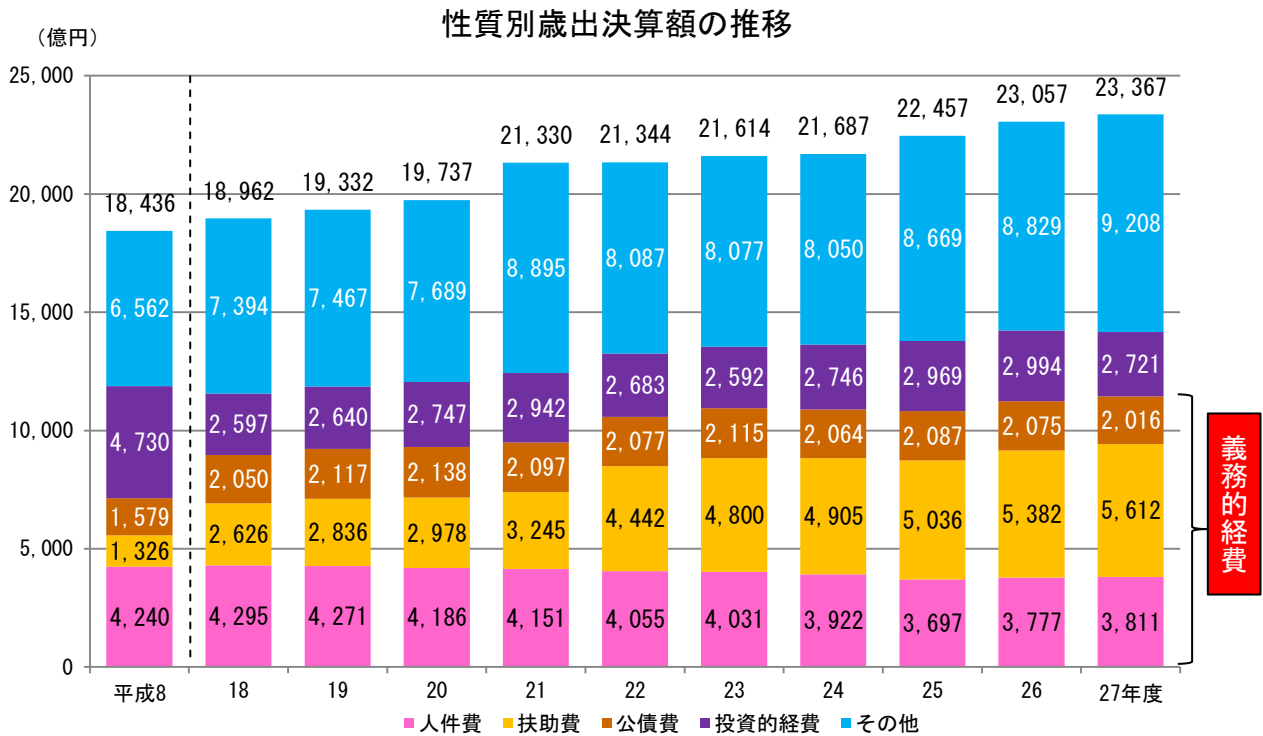


(2) 性質別決算額の推移

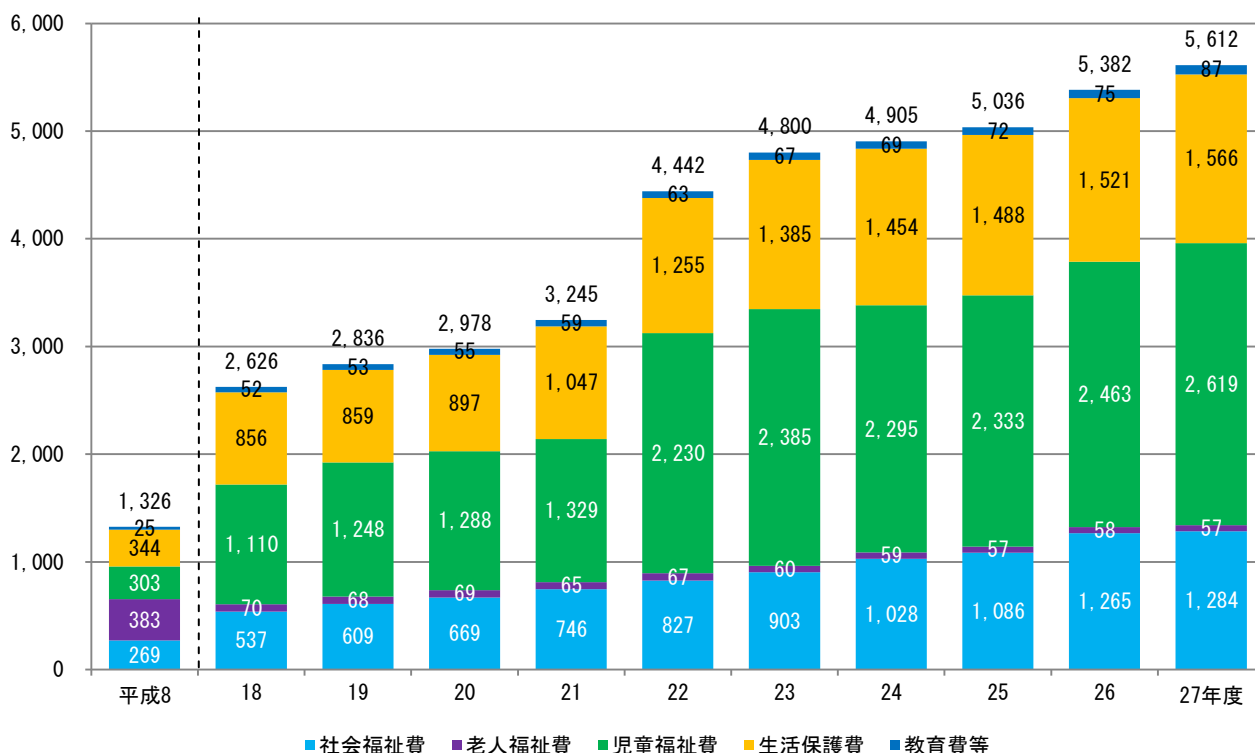
扶助費は児童福祉費の増加により、前年度に対して230億円増加(+4.3%)しました。義務的経費全体では205億円増加(+1.8%)により、1兆1,439億円となり、歳出に占める割合は49.0%に上昇しました。

投資的経費は273億円減少(▲9.1%)により、2,721億円となり、歳出に占める割合は11.6%に低下しました。



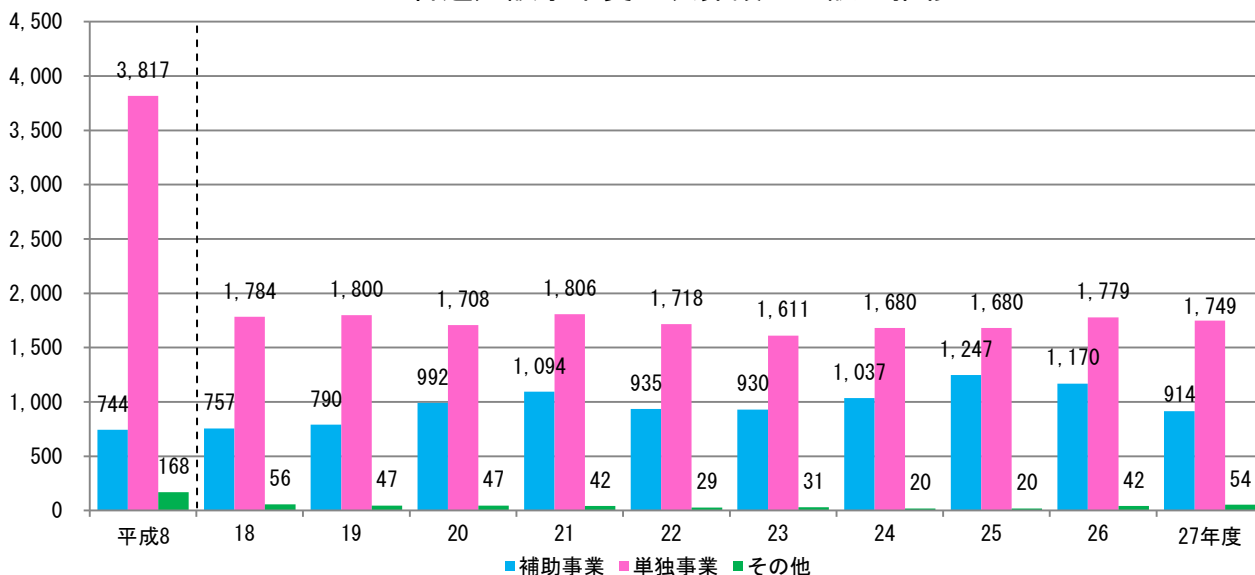
(億円)

扶助費の決算額の推移



(億円)

普通建設事業費の決算額の内訳の推移



一用語解説一

義務的経費

「人件費」、「扶助費」、「公債費」が該当します。これらは支出が義務づけられた任意に削減できない経費のため、この比率が大きいかほど財政構造が硬直化しているといえます。

投資的経費

「普通建設事業費」、「災害復旧事業費」等が該当します。これらは、支出の効果が資本形成に向けられる経費です、義務的経費に対して、この比率が大きいかほど財政構造の弾力性が高いといえます。

扶助費

社会保障制度の一環として、被扶助者に対してその生活を維持するために支出される経費です。

普通建設事業費

道路、橋りょう、学校、庁舎等の施設の新増設等の建設事業に要する投資的経費です。